

婦人子ども

第十四卷
第六號



大正三年六月五日

フレールベル會

第十四卷第六號目次

幼兒聲域の標準及び其發達 望月クニ

子供の睡眠の深さ 上野陽一

『トム・ソーヤ』(三) 岡田みつ

梅雨期と子供の衛生 石塚保吉

保育入門(五) 倉橋惣三

五、幼稚園教育の願慮

フレーベル自傳(第六回) 倉橋惣三譯

本誌定價

一册 郵稅共金拾壹錢 六册前金郵稅共六拾錢
拾二册同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方に右定價表により振替貯金にて御拂ひ
込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六
六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は
東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事
務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正三年六月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 東京市本所區番場町四番地
印刷者 平井登

印刷所 東京市本所區番場町四番地
凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地
フレーベル會

六月例會

六月十三日(第二土曜日)午後二時より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

講演

演題 未定

高島平三郎氏

當日高島氏の演題は未定に候へども、幼兒教育上直接參考となるべき問題につき、極めて有益にして興味多き御講演ある筈、會員及會員外多數諸君の御來會を希望致候

六月

フレイベル會

夏期講習會豫告

本會夏期講習會左の通り開催致候、尙ほ講習課日は幼兒教育上最直接有益なるものを撰び目下講師の交渉中に有之次號に於て詳細廣告可致候

追而宿泊の御便宜に關する準備も致候筈につき多數諸君の之御來會を切望致候。

- 一、七月二十七日より八月五日まで十日間
- 一、東京女子高等師範學校内にて
- 一、會費金貳圓(本會々員に對し二割引)

六月

フレール會

幼兒聲域の標準及其發達附樂音模倣力

神戸市立神戸幼稚園長 望 月 ク ニ

一、調査の由來と其方法

我神戸幼稚園今年第一の職員會に於て、幼兒の聽覺發聲練習の實際的方法を研究せしに、乃美あい、野村てる、高田ふく、長塚まさこ等の保母が、先づ幼兒の聲域を調査し、而して後適當なる方法を案出せんに若かずと云ひしを採用し、直に調査に着手し、先づ幼兒聲域の標準を定め、次ぎに其發達を計らんが爲に、一定の練習を課し其變化を測定せり。

聲域標準調査の方法

保母中最も耳の發達せる、佐藤ます、石田ゆき、前出元技の三名を選びて其任に當らしめ、樂器は萬國調の「オーガン」を用ひ、幼兒を一人づゝ其傍に招き、兩手を兩脇に充て、「オーガン」の音に

合せ「ア」音を以て發聲せしむ、「ハ」調「1」より始め「1 2 3 4 5」の順に進み、除々に頭を擧げて唱はしめ、發聲し得ざるに至りて止む。再び「1」音に歸り、「オ」音を以て靜に頭を下げつゝ、「1 7 6 5」の順に發聲せしめ、出し得ざるに至りて止む。若し「1」より發聲し得ざる者は、「3」音より始めて上下し、高き音の外出し得ざる者あれば、「1」音より始めて下降す、多くの場合に於て、直に適當の聲を出し得ざる者にて、長く同音を續けて唱へしむる間に、自然調子の合ふに至るを知るべし。若し如上の方法にて不十分なりと認むるときは、唱歌によりたる場合もあり、「先生」「おかあさん」等の語を發せしめたる時もありき。

如斯方法によりて得たる、幼児聲域の標準は、
左の如し

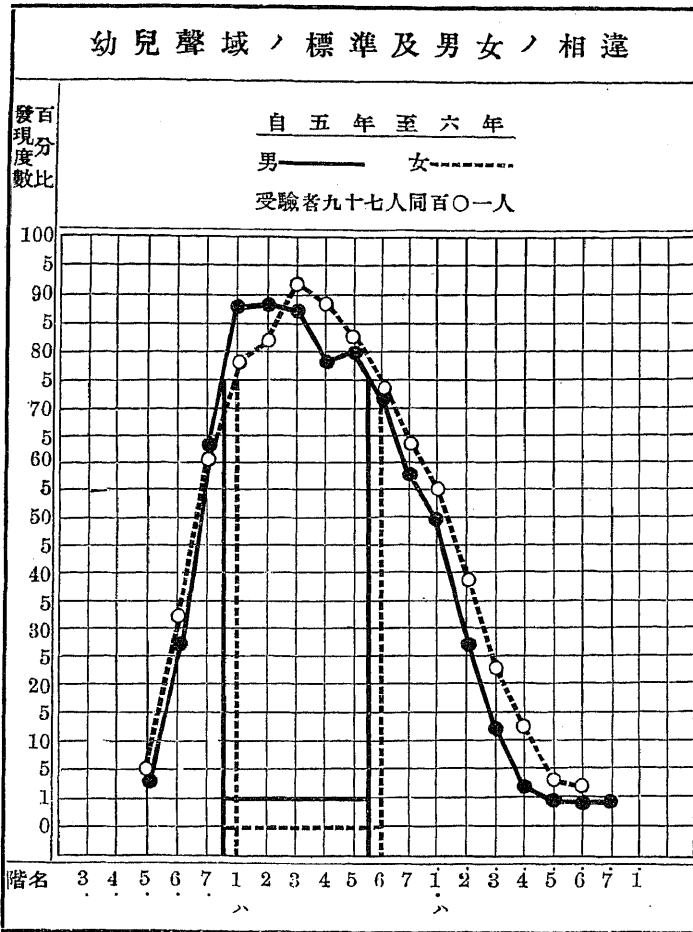
一、幼児聲域の標準

第一號表 (一)

(1) 第一號表 大正三年二月調査二枚

神戸市内各幼稚園の幼児を調査せり

自六年至七年 男二〇〇人 女一〇七人
自五年至六年 男九七人 女一〇一人



此表の表はす處に依れば

聲域 自五年至六年

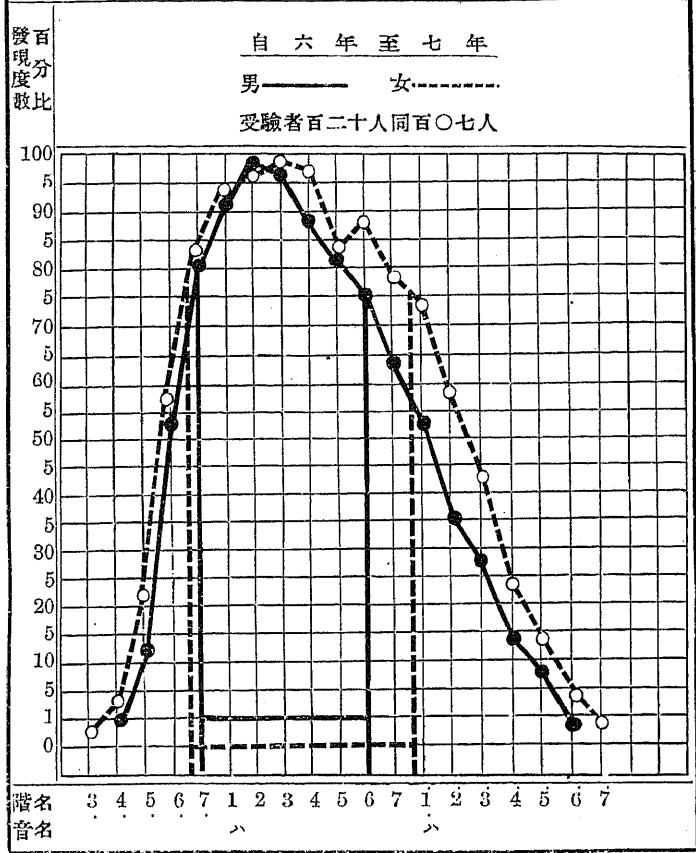
男 12345
女 123456

自六年至七年

男 7 123456
女 7 12345671

五年より六年に至る幼児は、男は「1」より「5」に至る、四音半の聲域を有し、女は男よりも一音高くして、「1」より「6」に至る、五音半を有す。六年より七年に至る幼児は、男は「7」より「6」迄、即五年—六年の幼児

幼兒聲域ノ標準及男女ノ相違



を混入せるを以て、練習の方法を一定すること能はず、隨て其發達を調査すること困難なるを以て、特に我國の幼兒のみを調査したるに、一號表

と標準の大差なきを以て之を二號表とし、其發達を附記せり。

に比して、上に一音下に

半音の聲域を増し、女も

亦男に比して、一音半高

く「7」より「i」に至

り、五年—六年の女兒に

比すれば、下に半音上に

一音半を増加せるを見る

べし。

注意此受験者は十ヶ月

以上、幼稚園に於て、唱

歌を學びし者なり。

(2) 第二號表

(大正三年一月廿九日調査)

同 年三月十二日調査)

第一號表は、他園の幼兒

四枚

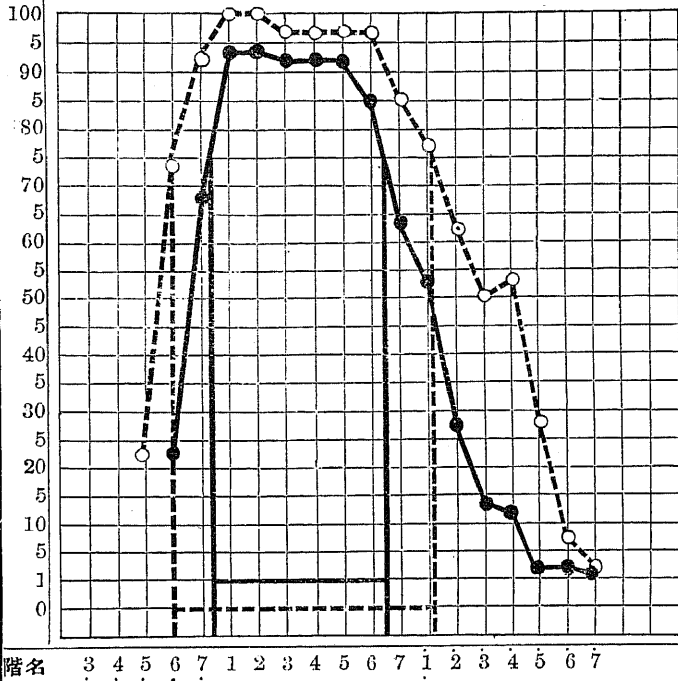
幼兒聲域ノ標準及其發達

第二號表 (1)

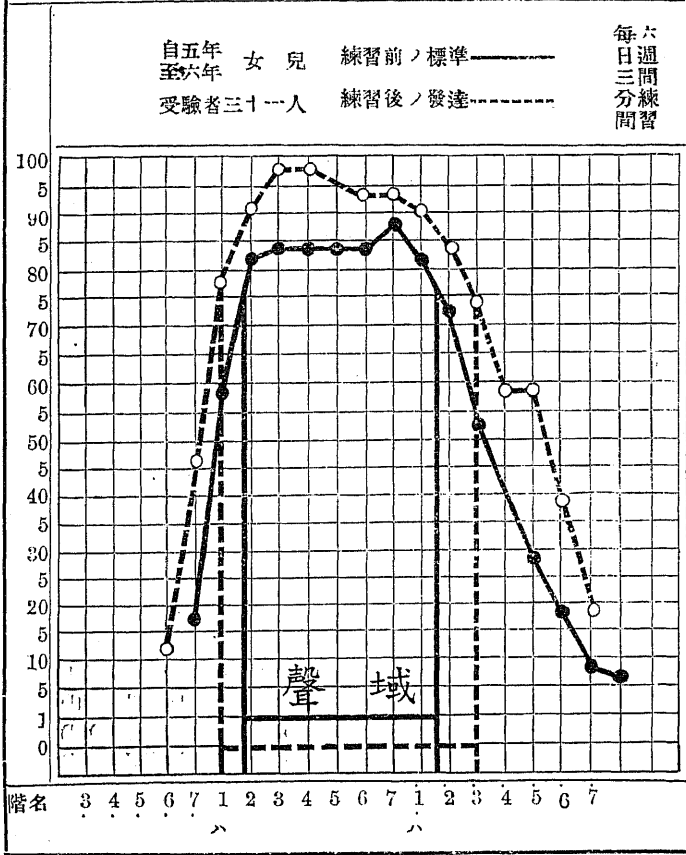
百分發
現度數
比

自五年男 兒 練習前ノ標準-----
至六年 受驗者三十四人 練習後ノ發達——

每六週
日三分
間練習



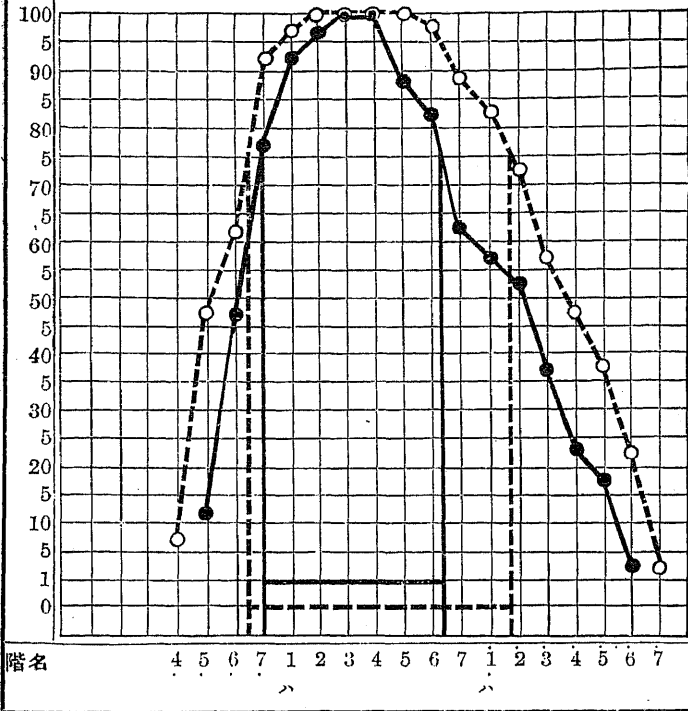
幼兒聲域ノ標準及其發達



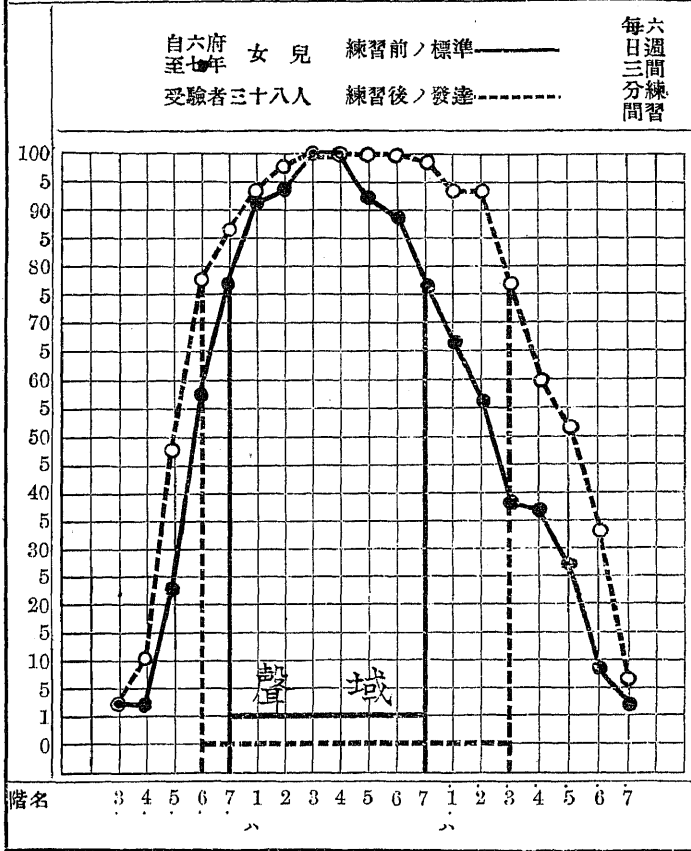
幼兒聲域ノ標準及其發達

自六年至七年 男兒 練習前ノ標準——
 受驗者四十六人 練習後ノ發達——

六週間練習
 每日三分間



幼兒聲域ノ標準及其發達



三、一定の練習による聲域の發達

○一定練習の方法

毎日晝食前三分間を、一定の練習時間と定め、各受持保姆は、自己の聲、又は樂器により、一等の發聲を爲し、其音と同音に可成母音を以て一齊に發聲せしめ、次に幼兒の姓名、又は其他の簡單なる詞を、前法に依り、
111—
 オト—サン
333—
 オカア—サン
555—
 オハ—ヨウ
 の如く歌はしめて發聲練習を終り、時間餘りあれば、稍高尚なる唱歌を、保姆自から獨唱するか、又は面

第三號表

一覽表	
自六年至七年	
女	男
39	46
5	4
2.5 4354.52	2 3.525 4
3 5 4 3 5.5	.5 4 5 4.5
5.597.57.57.5	2.57.57.585
H.H.T.O.I.	Y.S.Y.T.

白き歌曲を奏して、靜に之を聽かしむることあり。
 (三分間を超ゆるも五分に及ばざる様注意せり) 簡單なる詞は、大略左の如き譜に依る。

調、

1 1 1 1	5 5 5 5	3 3 3 3	1 1 1 1
1 3 5 —	5 3 1 —	5 1 5 —	5 3 1 —
1 2 3 —	3 2 1 —	5 1 6 —	5 3 5 —
5 3 1 —	2 5 5 —	6 5 3 1	

○聲域の變異(音痴)
 我園幼兒の聲域を、調査したるに、左記の音痴を知り得たり。

音痴幼兒

	自五年至六年	
	女	男
受験者數	31	34
音痴者數	4	4
階名 4 3 2 1	◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎	
7 6 5 4 3 2 1	◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎	◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎
7 6 5	◎	◎◎◎
練習前 ノ聲域	3 2 3 4	4 4 4 3
發達 ノ音數	5.57.53.53.5	1.53.52.54
發達後 ノ聲域	8.59.56.57.5	5.57.56.57
人名	Y.N.Y.I.	A.K.I.I.K.

自五年至六年男兒三十四人の中に四人

女兒三十一人の中に五人

自六年至七年男兒四十六人の中に四人

女兒三十八人の中に四人

計百四十九人の中に、十七人の音痴者あり、此等の幼兒の中には、表の示すが如く、高き音の全く出でざる者あり、低き音の出ざる者あり、二音より出でざる者もあり、然れ雖、彼等をして自由に歌はしむれば、全く調子外れながら大聲を發して唱歌を成すもあれば、自己聲域の範圍外は聲を出

し得ずして、途切れ出づる所のみ歌ふもあり、又は如何なる曲も、自己聲域の範圍内にて歌ひ、只拍

子のみ合せ居るもあり、此等の幼兒の聽覺及發聲練習には、殊に意を用ひ、毎日規定の一般練習以外に時々一二回づつ靜に發聲せしめて矯正したり。

如斯して、六週間の後、之を調査したるに、表中◎丸の音數丈發達し、唱歌も亦幾分か優美になり、普通の幼兒に漸く近づくを得たり。

○練習の結果

第二號表の示す如く、六週間練習の結果は、聲域

の標準に於て、五年—六年は男女共に二音半を増し、六年—七年に於ては男女共三音半を増加す。

第一回の調査 發達後の聲域 調査音數

五	男	7123456	6712345671	2.5
一	女	1234567	7123456712	2.5
六	男	7123456	67123456712	3.5
七	女	71234567	671234567123	3.5

今之を各自の有する聲域より、高或は低に發達せる人員及音數を掲ぐれば、左の如し。

第四號表

る聲域の結果(百分比)			
自六年		至七年	
男(四十六人)		女(三十八人)	
低キ方へ	高キ方へ	低キ方へ	高キ方へ
	2	3	5
	0	8	8
	0	2	0
	2	0	3
	0	9	5
	4	7	5
	7	8	8
17	17	8	13
2	8	5	8
44	24	34	31
11	14	8	80
26	13	45	16
74	87	55	84
26	13	45	16

一定練習により發達せ

自己聲域ヨリ	自五年 至六年			
	男(三十四人)		女(三十一人)	
	低キ方へ	高キ方へ	低キ方へ	高キ方へ
7				
5				
6				
5		3		6
5		3		3
4		3		3
5	3	9	3	6
3	3	0	0	3
5	6	20	3	23
2	6	6	13	0
5	9	12	10	10
1	38	18	16	13
5	3	6	7	0
0	32	20	48	36
發達セザル人員數	68	80	52	64
發達セザル人員數	32	21	48	36

五年—六年男兒三十四人

高キ方へ 發達せざる者 七人(百分比二二)
 發達せる者 二十七人(百分比七九)

低キ方へ 發達せざる者 十一人(百分比三二)
 發達せる者 廿二人(百分比六八)

同 女兒 三十一人

高き方へ
 發達せざる者 十一人(百分比三六)
 發達せる者 二十人(百分比六四)

低き方へ
 發達せざる者 十五人(百分比四八)
 發達せる者 十六人(百分比五二)

六年—七年男兒四十六人

高き方へ
 發達せざる者 六人(百分比一三)
 發達せる者 四十人(百分比八七)

低き方へ
 發達せざる者 十二人(百分比二六)
 發達せる者 三十四人(百分比七四)

同女兒 三十八人

高き方へ
 發達せざる者 六人(百分比一六)
 發達せる者 三十二人(百分比八四)

低き方へ
 發達せざる者 十七人(百分比四五)
 發達せる者 二十一人(百分比五五)

練習の効果は、此の如く發達せし者、發達せざる者に比し、勝ること多きを知るべしと雖、然も此發達せざる者の中には、已に十分の發達を遂げて、之れ以上の進歩を爲し能はざる者も亦多し、之に反し、發達音數の最も多きは、各自の聲域標準に達せざりし者、急に長足の進歩を爲せるを知るべし

四、入園當日に於ける幼兒樂

音模倣力の標準

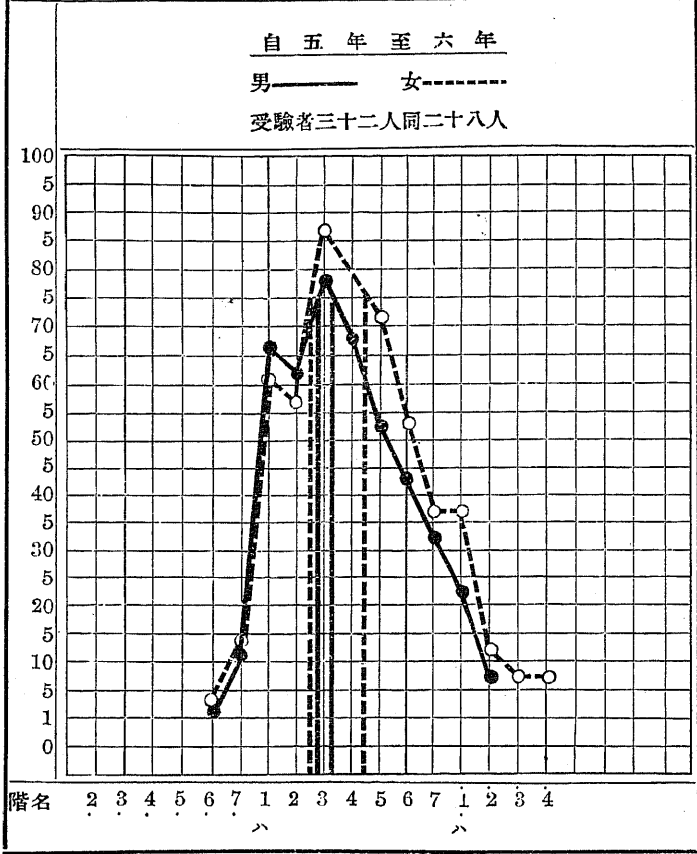
大正二年度は終りを告げ、學齡兒童は去りて小學校に入學し、幼き穉き子供等は、四月一日を期して入園し來る、未だ幼稚園教育を受けざる、此等幼兒の、樂音模倣力や、如何にと、即日調査して左の五號表を得たり。

受験者

五年—六年男 3—1音 (三十二人)

同 女 3,4,5—2音半 (二十八人)

入園時幼兒樂音模倣力及男女ノ相違



今日入園せし、幼兒の樂音模倣力を調査したるものを基とし、唱歌或は一定の練習法によりて、其發達の度を測定すれば、必正鵠に近きものを得べしと雖、遡りて調査するを得ざるを以て、假に此幼兒に唱歌を教へて歌はしめたるに、例年の例に、何等の異りたることを發見せざるを以て、今之を入園當時の幼兒の樂音模倣力と假定し、唱歌及一定の練習法による發達を示せば左の如し。

發達之力量模音樂

年齡	性別	模倣シ易キ音程	十ヶ月乃至二年ノ唱歌模倣發達	發達音數	唱歌以外練習後樂音模倣力ノ發達	發達音數
		ハ 調				
自五至六年	男	3	7 1 2 3 4 5 6 ハ	半全 音音 二四	6 7 1 2 3 4 5 6 7 1 ハ ハ	半全 音音 一二
	女	3 4 5	1 2 3 4 5 6 7 ハ	全 音 四	7 1 2 3 4 5 6 7 1 2 ハ ハ	半全 音音 二一
自六至七年			7 1 2 3 4 5 6 ハ		6 7 1 2 3 4 5 6 7 1 2 ハ ハ	半全 音音 一三
			7 1 2 3 4 5 6 7 ハ		6 7 1 2 3 4 5 6 7 1 2 3 ハ ハ	半全 音音 一三

○入園兒の調査

入園當時に於ける幼兒は、家庭に於て多少音樂を聞き、又兄弟の唱歌を模倣したることあるべし

と雖、大概是極めて幼稚にして樂音を出し得ざりし者も亦多かりき。此等の幼兒は、果して樂音を出し得ざるや、又恥かしき爲に唱はざるやを判知し難きを以て、之を省き、多少にても發達したる者のみを受験者として其模倣を測定したり。其結果は表の示す如く、男は一音女は二音半の標準を得たり。之を毎年大差なしとすれば第二（一月二十九日調査）に於ては、前々年四月或は前年四月より本年一月に至るまで十ヶ月乃至二年間、單に唱歌のみによりて發達せし模倣にして、其發達音數は男全音四半音二、女四音なり、之によりて幼稚園に於ける唱歌が、樂音模倣力に及ぼす効果の大なるを知るべし、然るに五年—六年の幼兒と六年七年の幼兒の聲域を比較するときは、僅に低き方に於て女、半音發達せるのみにて、十ヶ月の唱歌練習も、二年に近き唱歌練習も、聲域の上に大差なきを見れば、唱歌によりて、十分發達するは、天性堪能なるものか、又普通以上の者にして、其

他の普通の幼児、及音痴者は、進歩の停滞せるもの如し、眞に此等普通兒及音痴者に、十分の發達を爲さしめんとするには、第三（三月十二日調査）の一定練習に待たざる可らず、此練習法に依る時は、僅々六週間にして、五年—六年に於て男は全音二、半音一、女は全音一、半音二、六年—七年に於て男女共全音三、半音一の、進歩を爲せるを見るべし。

五、本調査より得たる感想

(イ)本調査によれば幼児の聲域及模倣力を、十分に發達せしめんには、從來の如く、幼稚園に於て唱歌を歌はしむることは、勿論必要なれども、一定の練習法によりて、聽覺及發聲練習をなさしむることは更に切要なり、唱歌に於ては、唯單に模倣するのみにて、注意を要すること尠く、果して能く自己の聲が適當に出され居るや否やを知ることも能はざるを以て、天性此等の官能の勝れたるも

のか、或は家庭に於て常に音樂を聴く的機會を有する者の外、普通の幼児は、當然發達すべき官能を有しながら、十分の發達を遂ぐる能はざるのみならず、殊に所謂、音痴なる者に至りては、唱歌を歌ひながら、一二年の歳月を閲するも、猶何等の進歩を爲さざるものあり、今此練習法によるべきは、幼兒は一心に其音を聴き必ず其音と同一の聲を出さんと力め、注意を集中するを以て、假令發聲器管には多少の故障ありて、聲域の上に効果は表はれざる者あるも、亦聽覺の發達は期し得べきなり。

(ロ)一定の練習時間長きに失する時は、興味を失ひ、注意散漫するを以て、最も短き時間にて連日之を行ひ、二三分乃至五分を超えざるを適度と思考せり。

(ハ)一定練習の後に、時々稍高尚なる唱歌、又は歌曲を奏して、之を瞑目するか、靜にして聴かしむることも、亦聽覺竝に趣味發達上に非常に効果

あり、此方法も、亦練習と同じく長きに失せざる様、注意を要す。

(三)一定練習を續くるときは、自然唱歌は優美に歌はれ、幼児に、有り勝ちの大聲嗽聲少くなり、無理なる音聲は、聞えざるに至り、「君が代」の如き幼児にとりて、比較的難かしき曲も、亦案外奇麗に歌謡するに至るを見るべし。

(ホ)從來幼稚園に於て、行はれ來りたる唱歌は、

子供の睡眠の深さ

「人生僅に五十年」といふけれども、その僅かな五十年の中の三分の一強、即ち約十七年間は眠つて暮すのである。分量からいつて人生の一大事實たることを失はぬ睡眠も、その理論的研究に至つては、まだ極めて幼稚の域を脱して居ないのは遺憾である。その本質は如何、その原因は如何の如

大概此聲域の範圍内に於て作曲せられたれば、急に改作の必要を認めずと雖、長幼發達の有様に鑒みて、適當なる歌曲を撰定するの必要あるは、固よ論を待たず。

(ハ)小學校に於ても、幼稚園を経ずして、入學せる兒童に、此方法を施せば、亦同一の効果あるを疑はず。

(此の研究は大阪に於ける日本兒童學會總會の席上に發表せられたるものなるが、更に保育界同好の注意と示教とを乞ひたしとて、望月氏より特に本誌に寄せられたり。編者)

文學士 上野 陽 一

きまだその定説を見ない有様である。併しかくの如き純理論的の部分を除き、その現象に關する研究は比較的よく出來て居るから、それを述べて御参考に供しようと思ふ。

一、食事よりも睡眠が大事

睡眠とはいふまでもなく、物質代謝の平衡が失はれたとき、それを回復する手段の一つであるが、同じく回復手段の一たる食事、即ち栄養物を取り入れることよりも遙に大切なことである。子供でさへ五日間位は栄養をとらなくとも生きて居る。そのために蛋白や脂肪は著しく消費し盡されるけれども、尙標準體重の四分の一を失ふ位に過ぎない。大人は断食断水しても、三週間乃至四週間は生きて居られる。断食しても水さへ飲んで居れば六週間位は生きて居られる。但し體重は半分に減るといふことである。然るにそんなに長い間断食は出来ても、睡眠即ち睡眠をせずに居るといふことは考へられない。一晚位の徹夜は出来ても、その後はどうしても眠むいのに打ちかてなくなつてしまふ。支那には睡眠の刑があつたといふ。動物に對して、人爲的に睡眠を妨げて見ると、その結果は甚だしい害を及す、若しくは二三日にして死んでしまふといふことである。即ち睡眠を絶つてか

ら二三日も經つと、もう眼を開いて居ることが出来なくなり、脚も利かなくなり、困憊の極、死に赴くのである。併し途中でよく眠むらせるとすつかり回復してしまふ。睡眠の如何に大事であるかは、以上の例によつて明らかであらう。

二、子供の睡眠の深さ

兒童期に於ける睡眠の生理については、ツエルニーが有益なる研究を公にして居る。氏は子供の睡眠の深さが如何に變じて行くかを知るために、開断時の感應電流を感覺刺激として用ひた。電極としては、長さ三・五センチメートル、巾二センチメートルの乾燥せる亜鉛板を用ひ、血行を妨げないやうに、それを上膊に結びつけた。第一電流を閉鎖する度に、電流の強さをミリアムペール、増して行き、どの位で目を覺ますかを調べた。随分殘酷なる實驗ではあるが、それだけ貴重なる實驗といはなければならぬ。

生後一週間の乳児について調べた所によると、一回の睡眠時間は平均三時間であつて、長ずるに従つて次第に長くなる。その深さを曲線の高さで示して見ると、三時間の中に山が一つある。即ち第一時間の中に急速の上昇（即ち深くなること）を示し、それから徐ろに下降（即ち浅くなること）して居る。生後九ヶ月の乳児二人について實驗した所によると、途中で短時間目を覺ましたために曲線は二つに分れて、各々一つづゝの山がある。而して第二期に於ける睡眠の深さは遠く第一期のそれに及ばない。

ツエルニーは、乳児の全夜に亙る睡眠が、この前後二期に中斷される現象を説明して、それは榮養の要求が起つたためであるとした。その證據には子供が年をとるに隨つて、榮養の要求から來る刺激から免れるやうになつて、夜中に目を覺ますことがなくなるからである。二歳乃至六歳の兒童六名について實驗した所によると、睡眠の深さは第

時間目に於て最大の深度に達し、二時間目は急速に淺くなり、五時間目六時間目に至つて最も淺く、朝に近づいてから第二回目の上昇をなして、可なり深い睡眠に陥るやうである。かくの如く、九時間目が十時間目には睡眠の度が深くなるけれども、第一時間の如き深さには達しない。大人の場合について、コールシュツテルの觀察した所によると、大人は朝頃になつても睡眠の深くなることはないといふことである、メンニングホフ及びビースベルケンは、大人に於ても子供に於けるが如く、第二回目に少しの高まりがあるというて居る。然るにラムブランチ及びデ、サンクチスは大人に於ても、朝頃になつて著しく深くなるというて居つて、各々相一致して居らぬ。

二歳以上の兒童については、まだ研究がないやうであるが、その消長の有様はよほど大人の場合に近づいて來て居るやうである。

三、大人の眠りの深さ及び

その二型式

學齡兒童の睡眠の深さについては、まだ研究がないから、大人の場合について考へて見なければならぬ。六歳以上の子供の眠りは、大體に於て大人のと變りはあるまいといふことを、信すべき理由があるからである。

大人の睡眠の深さについては、ミヘルソンが四人の被験者について精密に實驗した結果があつて最も人に知られて居る。氏は音響を以て刺激としてそれを次第に強くして行つて、被験者が目を覺ますに至る閾を定める方法をとつたのであつた。而して音の強さの單位としては、一グラムの重量を一センチメートルの高さから落した音の千分の一を以てした。落す重量は眞鍮製の球で、それを斜においた木板の上に落すのであつた。餘計な響を outsaid やうに、その球を落すための装置は實驗室の外に設けることにした。かくの如き方法を以て

研究した結果、左の如き二種の睡眠曲線を作ることが出來た。

第一種の曲線に於いて、就眠後約一時間ばかりで山に達し、その後は絶壁の如き形をなして、急速に下降して居る。又曲線の進み方にはあまり動搖なく、終りに至るまで滑かである。然るに第二種の曲線に於ては、山に達するのが遅く、二時間目に最も深くなつて居る。その高さは第一種のやうに高くはないけれども、一旦山に達してからも急には下降せず、五時間目や六時間目になつても可なりの高さを保つて居る。この二種の曲線の相違は吾人の實際生活上に緊要なる關係をもつて居る。即ちこの兩種の睡眠型は實際世間に見る所の相違である。即ち第一種の型に屬する人は夜は早く疲れて、就眠後直に深い眠りに陥り、朝は早く起きて活潑に働く性の人で、第二種の型に屬する人は、夜は何時までも仕事が出来る代りに、朝は遅くまで眠りを欲し、起きてからも、可なり時間

が經つてからでない、仕事に調子づいて來ないといふ性の人である。かくの如く睡眠の型に二種あるといふことは、一日中に於ける仕事高の消長が人によつて違ふこと、特に朝に於て仕事の出来る人と、晩になつてから次第に仕事が出来るやうになる人とあることと相關聯して頗る興味ある事實であると思はれる。

四、實際生活上の觀察

兒童期に於ても、この二種の型式が判然現れて居ることが明らかにされた。ベルンハルトの調査によると、入學兒童八百六十三人の中、早起きにして元氣なるもの六十五パーセント半で、朝寢坊は三十七パーセント半であつた。尤もこれだけの事實から二種の型式の存在を推すことは勿論出來ない。早起きにも、虚弱な貧血性な神経質の子供が居た。又朝寢の子供の中には、本來の性質から朝寢をするのでなく、たゞ家庭の事情が不完全で

あるために、就眠が遅く随つて自然に「宵つばり朝寢坊」をするものも少くはないのである。

二種の睡眠型は實際生活上に如何なる關係をもつて居るか。レーメルはそれを心理學上から實驗した。即ち夜ふかしと朝寢とが覺醒後の仕事能力に如何なる影響を及すかを測完せんとした。その結果によると、朝おきの人は就眠後短時間の中に十分眠入つてしまふからして、就眠を遅くしても亦朝早く起きてても、覺醒後の仕事能力には、殆ど何等の影響を及さない。これに反し朝寢の人にありては、就眠時間を遅くする方は、大した影響を及さないが、朝の時間を切りつめて早く起きると仕事能力が大に低下するといふことであつた。而して朝起きてから仕事能力の高まつて來るのは、徐々たるものであつて、このことは朝寢の人に於て殊に著しい現象である。故に朝起きてから當分の中は、朝寢の人よりも早おきの人の方が仕事能力に於て優つて居る譯である。

然るにリガントは優秀なる研究結果を公にして
下の如く論じて居る。レーメルの實驗結果は、よ
く慣れて居る容易の精神的仕事については、行は
れることであるが、骨の折れる、むづかしい仕事
のためには、睡眠時間を短くすることは、如何な
る人にとつても有害なことであつて、前日の疲れ
を回復して仕事能力を著しく高めるためには、長

時間の睡眠が必要である。五時間や六時間の睡眠
では仲々仕事能力の回復が出来るものではない。
それ以上、一時間や二時間眠つても、まだ仕事能
力が高まる點までには行かないのに徹しても明ら
かである。換言すれば、困難なる仕事能力をする
場合には睡眠の回復作用はその時間と正比するも
のである。

『トム・ソーヤ』(三)

|| 英文學に現はれたる子供(十八) ||

岡 田 み つ

まんぞくな男兒であれば、その少年期の中に、
必らず、何處へか行つて隠してある寶を探し出し
たいとの念に驅られる時があるものである。此願
ひが、或日忽然としてトムの心に起つた。で、友
達のジョー・バーバーを探しにと飛び出して見た
が不成功に了つたので、次にベン・ロジャースを尋

ねたところが、彼は魚釣に行つて留守であつた。
その中に、トムはフエン・ハックにはたと行き逢
つた。ハックならば丁度宜ささうだと思つて、ト
ムは彼を人氣のない處に連れて行つて、事の譯を
親しく打明けた。ハックは、一も二もなく賛成し
た。面白くて資本のかからぬ仕事ならば、ハック

はいつでも二つ返事で請合ふのである。彼は、「金でない」時といふものを困る程に所持して居たからである。ハツクは早速に問ふた。

「何處を掘ろうね。」

「大概何處でも構はぬのだ。」

「さうか。そこら中に隠してあるのか。」

「否。そうではない！ 特別の場所に隠してあるのさ。鳥の中とか、時には古い枯樹の枝の端の真下でね、||夜中にその枝の影が落ちる丁度下に、朽つた函に入れて秘めてあるとかさ||だが大概は化物の出る家の床の下にあるものなのだよ。」

「誰が隠すのだい。」

「それは無論盗賊さ||君は誰が隠すと思ふのさ—

まさか學校の先生でもあるまい。」

「どうだか知らない。己だつたら、隠したりしないで、さつさと費消つて遊んでしまふがな。」

「僕だつて。だが、盗賊はさうしないんで、きつ

と其を隠して置くのだよ。」

「後で取りに來ないのかね。」

「取りに來る積りなのだが、場所の目標を忘れるとか、死んでしまふとかするのだ。兎に角、寶が長い間そのまゝに成つて錆が出る程になるとその内に誰かが、古く黄色くなつた紙片を見付けけるのだ。すると、其紙片に目標の見付け方が書いてあるんだが、記號だの象形文字で書いてあるので、一週間位掛からなくては其が讀めないのさ。」

「しやうけ—何だつて？」

「象形文字ツて—それ畫や何かで、何の事だからつとも知らないあれさ。」

「その書付を御前持つて居るのかい。」

「否。」

「其ならどうして、その目標が分るのだい。」

「僕のは目標は不用いのだ。泥棒は、化物屋敷か、島か、一本枝の突き出てゐる枯樹の下かに、寶

を埋めると定まつて居るから。ジャクソン島は少し掘つて見た事もあるが、其内もう一度やつて見ても宜いし、スチル、ハウス、グランチの方には古い化物屋敷があるし、枯枝の附いてゐる木はいくらもあるからね。」

「どの下にも皆入つて居るのか。」

「何を言ふんだ。まさか。」

「そんなら、どの木の下ツていふ事が、如何して解るのさ。」

「一つく皆試して見るのだ。」

「では夏中かゝつてしまふ。」

「掛かつたつて宜いではないか。真鍮の壺の中に、鏝まがひだらけになつて百弗ひゃくぶ入つてゐるのを見付け出すとか、朽ちた函の中に、ダイヤモンドが一杯入つて居たら如何する。」

「それは豪義だらうな。すいぶん有難い事だらう。したら、己れには百弗御呉れね。ダイヤモンドは不用ない。」

「よし承知だ。併し僕はダイヤモンドを捨てるやうな事はしない。一個で二十弗位するものもあるものね。」

「そうか。ほんとに？」

「そうとも。誰だつて其位の事知つてゐる。君、見た事はないのか。」

「どうも覚えがないな。」

「王様なんかウンと持つて居るせ。」

「おれは王様に知り合ひがない。」

「それはそうだらう。歐州へ行くと、大勢跳ねまはつて居るよ。」

「跳ねて居るかい？」

「跳ねるツて！ まさか。」

「では、御まへ、何て云つたのだい。」

「エー焦心あせこころつたい！ 唯、大勢居るツていふ事さ。」

「跳ねてやしないよ。跳ねて居る譯がないではないか。唯何となくそこら中に一面に居るといふ事さ。あの駝背せむしのリチャード王のやうなのが。」

「リチャードー！ 姓は何といふのだ。」

「姓なんか無いのだ。王様は呼名しかないのだ。」

「そうかい。」

「あゝ、ないんだよ。」

「それでよいと言ふなら先方の勝手だが、己れは王になつて、呼名ばかりしかないなんて厭だ
な……黒ン奴のやうなもの……其はそうと最初
に何處を握るンだい。」

「さ。僕も知らないが、ステル、ハウス・プランチ
の先の丘の上にある枯枝の樹の處でもやろう
か。」

「よし承知だ。」

二人は役に立たぬ鶴嘴と鏟とを探し出して、三哩
の遠い處をテク〜徒歩いた。到着した時には
息が切れて、暑くて堪らないので、楡の木の樹蔭
にごろりとなつて、一休みやり出した。トムが、

「中々いゝね。」といふと、

「全くだ。」とハツクが答へる。

「もし此處から寶が出たら、君は自分の取分をど
うする氣だへ。」

「毎日バイを買つて而してソーダ水を飲むんだ。

それから曲馬の見世物が来るたんびに、見に行

つて……面白いなあ。」

「ちつとも貯へないのかい。」

「貯へる？ 何だつて。」

「先へよつて暮せるやうにさ。」

「駄目だ！ 親父がいつか又戻つて来るもの、急

いで費消つてしまはなければ皆引さらつて持つ

て行くに定まつてら……御前はどようする氣だ、」

「大鼓の新しいのと、上等の劔と、赤のネツクタイ

と、犬の子とを買つて、それから結婚するんだ。」

「結婚する？」

「そうさ。」

「トム！ 御前氣が違つたな。」

「まあ見て居たまへ。」

「これ程馬鹿な事があるものか。己れの親父と御

母あを見ろ。喧嘩ッたら年中絶間なしだッた。

それはよく覺えてゐる。」

「そんな事は何でもない！ 僕の結婚する娘は喧嘩なんかしない。」

「いや皆同じだよ。皆一ツ組だ。だから、もつとよく考へて御覽。ほんとに。その娘の名は何といふのだ。」

「いつか教へてやる。今はいけない。」

「そうか、それでもいいや。唯御前が結婚するとおれは一層淋しくなるなあ。」

「なあに、僕の家へ來て住めばよい。さあ、そろそろ動き出して、掘りに掛ろうよ。」

二人は、三十分位せつくと大汗あせになつて稼いだ。が、何も出なかつた。又三十分働いた。やはり何も出なかつた。ハックが、

「こんなにいつも深く埋めるかなあ。」

「時にはさういふ事もあるが、きつと、いふ事はない。大概はさうではないのだ。どうも場所が

違ふらしい。」

と言つて又別の所を選んでやり直した。少しだけ氣味だつたが、でもまあ工事は進捗した。二人とも無言で、暫時コック／＼やつて居たが、ハックは鑿すまに身をもたらせて、額の玉の汗を袖で拭きながら

「此處を濟すませたら、次はどこを掘るのだい。」

「あの寡婦やめめの宅の裏の、カーデフ山にある老木のところをやろう。」

「よかろう。だが寡婦が寶をとつてしまいはしないか。あの人の地所だから。」

「あの人が取る！ 隠してある寶は見付けた人の所有もつだ。誰の地所だつて、そんな事に關係があるものか。」

ハックはそれで満足して、又やり出した。暫時して、ハックが再び、

「やれ／＼又場所がちがつたのだろう。御前如何どう思ふ。」

「實に奇妙だね。どうも解らない！ 時には魔使め

が邪魔をするといふから、そうなのかも知れない。
い。」

「何だ。魔使女は晝間は無力ではないか。」

「それ其もさうだ。そこまで考へつかなかつた。」

あゝ解つた！ 實に僕等は馬鹿ではないか。そ

れ、枯枝の蔭が夜中に射すところを見付けて、

そこを掘らなければいけないのだつた。」

「では今迄やつたのは、骨折損の草臥儲けか。而

して、こんどは夜來るのかい。すいぶん此處ま

であるよ。御まへ夜出られるかい。」

「出られるとも。僕等今夜爲なくてはならない。

他人がこの穴を見ると、すぐ知つて自分で手を

下すからね。」

「よし來た！では叢の中に道具を隠して置かう。」

その夜、小年等は約束の時間に、其場所へ來て、

小暗い處に坐を占めて時の來るのを待つて居た。

場所は淋しいし、時刻は言ひ傳へで恐ろしいとなつ

てゐる刻限であるから、目に見えぬものが、ざわつ

く木の葉の中で囁き、幽靈は暗い隅にひそまつて
ゐるし、犬の遠吠が遠くから風につれて聞こえて
來ると、鼻が小氣味わるい聲で其に應じてゐた。

子供等は、莊嚴の氣に打られて、話もろくにせず
に居た。やがて十二時の頃を見計らつて、蔭の射
す點に印をつけて掘りにかゝつた。何だかこんど
はうまく行きさうな心地で、乘氣になると、仕事
も涉がいつて、穴はだん／＼深くなつて來た。而
して嘴がカチリと物に當るたびに、心が動亂いて
は、失望を繰り返すのであつた。出るものは石塊
か木塊ばかりなので、とう／＼トムが、

「駄目だ又ちがつた。」

「だつて違ふわけがない。蔭を寸分違はずに標を

付けたもの。」

「それはそうだが、他の事が悪るかつたのだ。」

「何が。」

「時刻はたゞ推量したのだらう。だから早すぎた
かおそ過ぎたか分らないよ。」

ハツクは思はず鎌を手離した。」

「あゝさうか。それが悪かつたのだな。では、此處は止めやうではないか。精密な時刻はとも解らないし、魔使女だの幽霊だのが、そこらに動きまはつてゐるこんな時刻に、實際恐ろしいもの。始終後ろに何か居るやうな氣がしてね。後ろを向かうと思つても、前にも何か居て隙をねらつて居るかと思ふと、其も出来ない。此處へ來てから身體中がウズ／＼するよ。」

「僕もさうだ。泥棒は寶を埋める時には、樹の下へ死人を入れるのだよ、番をさせる爲に。」

「あゝ厭だ。」

「眞實ほんとなのだ。よく人がさう言ふもの。」

「死人の居る處なんぞ尙更だ。おれはこんな處にまご／＼して居たくない。必然きつと恐ろしい目に逢ふ。」

「僕も、死人を動かしたりしたくない。此處に居る死人が首を持上げて、何か言つたら如何だろ

う。」

「あゝ厭だトム。恐いや。」

「全くだ。氣持がよくないな。」

「此處を止めて、何處か他にしやうではないか。」

「あゝ、其方がよかろう。」

「何處にしやう。」

トムは一寸考へて、

「化物屋敷にしやう。」

「やれ／＼。化物屋敷は厭だナ。死人よりも尙厭ではないか。死人も、口をさくかも知れないが、

白い經帷かたびら子を着て、人の氣の付かぬ間に傍へ寄つて來て、肩越しに首を突き出して、齒軋りなんかしやしない。そんな目に逢つたら堪らないからね——誰だれだつて。」

「あゝ、けれど幽霊は夜でなければ出ないのだよ。晝間僕等が來て掘つたつて、邪魔をしやしないよ。」

「それはそうだが、晝間だつて夜だつて、あの家

の近くへ誰も行くものはない。御前もよく知つて居るだろう。」

「それは、人殺しのあつた場所へ行くのが厭だから人が行かないのだ。あの家に何か出るといふのは、夜だけで、しかも青く光るものが窓の所をすつと通るといふので、眞の幽霊ではない。」

「青い光りがピカ／＼するつていふのは、近くに幽霊が居るといふ事ではないか。幽霊でなくて、そんな光りを使ふものはない。」

「そうだね。だが何しろ、日の中は來ないのだから恐がる事はいらぬではないか。」

「よし。ではあの化物屋敷をする事にしやう。」
丘を下りかけて見ると、眼下に平地の中央に、その化物屋敷が月光を浴びて立つて居た。一軒の離れ家なのだが、塀もいつか取り崩され、生ひ茂つた草は入口までも塞ぎ、煙突は破れ、窓の枠は無くなり、屋根の一端は落ち込んで居た。小年等はその窓の傍を、青い光りがフ／＼して居るかと思

つて、少時眺めた末、時と場合に相當した小聲で話しながら、右へぐつと遠まはりをして化物屋敷をよけて家へ歸つた。

翌日正午頃に、トムとハックは枯木の處へ道具を取りに來た、トムは直にも化物屋敷の傍へ行かうと焦つた。ハックも氣は急いだ、不意に、

「あのね、トム、今日は何曜日だか知つてゐるかい。」

トムは、心の中で曜日を順に繰つて見て、驚きの眼を上げた。

「あゝ、ちつとも考へ付かなかつた。」

「おれもさ。それが今不圖金曜日だといふ事が浮んだんだ。」

「ハック！用心に越した事はない。こんな事を金曜日にもやり出して、どんな恐い事になるかも知れないからな。」

「かも知れない處か、なるさ。日には吉日といふ日もあるだろうが、金曜日は吉日ではない。」

「どんな馬鹿だつてそれ位知つて居る。君が始めて考へ付いたんでもあるまい。」

「何時おれが考へ始めたといつたい！それに金曜日だつていふばかりではない。昨夜、厭な夢を見たんだ——鼠の夢を。」

「そうかい。それこそ凶事の前兆だ。鼠が喧嘩したかい。」

「否」

「そんなら宜い。喧嘩しなけりや、凶い事が身に近いといふ前兆なのだからよく目を配つて用心すれば宜いのだ。今日は之を止めて遊ばう。ロビン・フードツていふ人を知つて居るかい、君。」

「如何いふ人だい。」

「英國中で一等偉い人——一等善い人だ。泥棒だよ。」

「おれも成りたいな。誰を掠めたのだい。」

「奉行だの、大僧正だの、大金持だの、王様だの貧乏人はちつとも虐めないで、可愛いがつてね

公平に分捕物を頒けてやつたんだ。」

「ふうん。素敵に偉いんだな。」

「そうとも、あんな豪傑はありはしない。今は、もうあんな人はないよ。ロビン・フードはね、片手を後ろに縛られて居ても、どんな相手でも負かすのだよ。而してね水松の弓で十錢銀貨を一哩半も隔て、射貫くんだ仕損ひなしで。」

「水松の弓つて何だい。」

「知らないけれど、何れどうかいふ弓さ。その銀貨の片端にしか當らないと、口惜しがつて、泣いて呪つたりするのだとさ。ロビンをして遊ばう——面白いよ、君に教へるから。」

「承知だ。」

それで二人は、長の午後をロビン・フードをして遊んだが、時々化物屋敷の方に懐かしさうに目をくれて、明日の見込みを話しかはして、日が西に傾く頃に、長い樹の蔭を横切つて家に戻つた。

土曜日には、晝後早々二人でまた枯樹の許へ來

て、木蔭で一服して、一饒舌して、其から掘かけの穴を少し掘り足した。當があるわけでもなかつたが、時には、もう六寸位で實に達くといふ際まで掘つて來ながら、そこで止めた爲に、他人に一掘りで掘り當てられる事もあると、トムが言つたからであつた。併し格別の事もないので、二人は道具を肩にし、心の中には、寶探しに必要な條件を悉く充して少しも疎略にした點はないとの自信を以て、立ち去つた。

化物屋敷に着いては見たが、カン／＼照り付ける日を受けて、物の音一つせぬ寂莫さといひ、淋しく荒れ果てゝゐる工合といひ、何だか不氣味で滅入るやうな心持がするので、さすがの二人も中へ入るのが恐ろしかつた。戸口へそつと摩り寄つて、恐る／＼覗いて見ると、室内は床板もなく雜草が生ひ茂つてゐて、壁はなく、只、古風な爐に戸のない窓、破れかゝりの階段があるばかりなのに此處にもかしこにも蜘蛛の巢の、破れたのがぶ

ら下つてゐた。二人は胸をどき／＼させ、ひそ／＼囁きながら、少しの音も聞き漏らすまいと耳を引立て直ぐ逃げられるやうに手足に少しの油断もなくして中へ入つた。

やがて、少しは馴れて、怖氣も薄らいだので、二人は精細に室内を見廻して、自分達の大膽を感心したり、又不思議がつたりして居た。次には二階へ上つて見たくなつたが、退去の時に險呑なので躊躇してゐた。その内に、恐いの恐くないのと互に言ひ募つた結果、二人とも道具を隅に投げ捨て、上へ登つた。此處も又荒れ朽ちてゐる事は同じで、頼みありげの押入が一つ片隅にあるばかり。之も明けて見れば、大當て外れで、中には何もなかつた。二人はいよ／＼勇氣が出て、いざ下りて仕事に取り掛ろうといふ段になつて、トムが

「シッ！」

「何だい。」とハックは眞青になつていふ。

「シッ！それあの音！」

「あゝ、大變だ、逃げやう。」

「静に！ 動いちやいけない！ 戸口の方へ來た。」

二人は床に腹這になつて、床板の節穴ふしに目を當て、恐れ怪みつゝ待つて居た。」

「立ち留つたよ。いやちがふ。ヤ、こつちへ來る。」

來たゝゝ。何にも言つてはいけない。こんな處へ來なければよかつた……」

二人男が入つて來た。

……

此二人の男は、殺人でも強盜でもなんでもする悪漢なのであるが、二人の小年が隠れて居るとも知らずいろゝ悪事の相談をした末、此處を立ち

梅雨期と子供の衛生

醫學士 石 塚 保 吉

梅雨期は、非常に病氣の多い時です。殊に傳染病が多いやうです。原因は、黴菌の繁殖に最都合

去るについて、貯への金の囊を、爐邊の石をのけて深く埋める積りで、石を除けると、その下から函が出て中に數千弗の金が入つて居た。悪漢等はふと柔かな泥のついた鶴嘴と鏟とが隅に置いてあるのに氣が付いて、大に怪しみ、こゝに大金を殘して置く事を危く思つて、とうゝ其函を自分らの隠れ家へ持ち去つてしまつた。トムとハックは折角の好運を、道具のおかげでとり逃して、殘念がつてすごゝ歸へつていつた。

(トムの悪戯物語はまだ先か澤山ありますが此處では之で一段としてまた趣のかはつたものに移ります。)

のよい時期であるのと、今一つは、はげしい氣候の變化にあるのです。特に此の時期は、子供が病

氣にかゝりやすいやうです。そして、子供は、多く寝冷えから種々の病氣になるやうです。

微菌の世界

微菌の繁殖に必要な條件は、適當な温度と、濕氣と、その食物になる栄養物です。此三つの條件が備はれば、勢盛に繁殖するのです。梅雨期は、此の三拍子が誠に都合よく揃つて居ります。それで、到る所微菌の世界となつて居るのです。冬は微菌があつては、たい存在して居ると云ふに止まつて、勢が衰へて居るのですが、此時期になると壁でも、障子でも、疊でも凡べて微菌に占領せられて居るのです。それが自然食物または食器について口の中へは入る、ついで腹の中に侵入するのです。腹の中には入ると、外界で養成せられて居る勢が更に強くなります。而して此時、人間の身體は時候の爲めに弱くなつて、抵抗力が衰へて居ます。そこで、忽ち腸胃の加多留といふやうなもの起すのです。

微菌の害の豫防

之を豫防するには、到る所微菌が繁殖して居るといふ事をよく承知して居て、常に注意して之を驅除する事につとめなければなりません。天氣の好い日は戸棚、疊などをよくふいて、之を日光に乾かす事が必要です。衣類道具などもよく日光に晒して消毒するのです。乾かすといふ事は、微菌にとつて大禁物なのですから、之を勵行するがよろしい。食器、ふきんなどの如きも、その使用後は必ず之を乾かす事に定めておくがよろしい。なるべくは勝手の外側に棚を設けてそこで乾燥せしめるものです。序ですが、日本のお勝手は、多く陰氣くさい所におかれて、どうも等閑に附せられて居るやうです。今少し日あたりのよい、風通しのよい場所をあて、衛生的にしたいものと思ひます。日光消毒は、安價で完全に出來ますから、骨惜しみをしないで實行するがよいと思ひます。

食器に注意すると同時に、食物に氣をつける事

は更に大切な事です。食事はなるべく煮たてのものを用ゐるやうに、菓子類も微菌のつきやすい蒸菓子類は避けた方がよい。果物も新鮮なものを選ばなければなりません。また、食物には必ず蓋をする事を忘れぬやうにするがよろしい。是等の點に注意すれば、微菌は、幾分防ぐ事が出来ます。

腸胃の病氣

是等の注意は、無論一般に必要ですが、小さい子供の食物は殊に注意を要します。此時期に、下痢が多くて、熱の出る腸胃の病氣があります。これは、下痢のあるのよりも重症で、危険が多いのです。かういふ場合には、下痢がないからといって、油断をせずに、早く醫者に見せるやうにしなければなりません。此時期以後の胃腸病は決して馬鹿にする事は出来ません。よく「腸胃の病氣位で安心しました」といふやうな事を聞かされますが、醫者の方では腸胃の病氣に安心する事は出来ません。却つて、チブス、肺炎などのやうなきま

つた病氣よりも心配なのです。腸胃の病氣で斃れた例は決して少なくありません。中毒症を起すとなか／＼なほりにくいのです。外の病氣と同じやうに、或はそれ以上に腸胃の病氣には注意しなくてはなりません。

寢 冷

寢冷の方は、一寸考へると暖かくなれば風をひかない筈のやうですが、却つて寒い時よりも、此時期に於て、風邪にかゝりやすいのです。大人は氣候の變化に應じて、自分で着物を加減しますが子供は着せられたら着せられたまゝ、どうする事も知りませんから、保護者がよほど氣をつけて、多少温度の相違が起つても大丈夫にしておかねばなりません。然らば、寢冷しらす衛生寢卷きのやうのものを着せるがよろしい。手足などは少し出てもかまわれないが、胴體、即ち胸や腹の部分をよく包んで、夜中に轉げ出しても別狀のないやうにしておぐがよい。

水 いぢり

それから、水いぢりはあまりさせない方がよろしい。水道の口をあけていたづらをしたり、金魚をおひまわしたりすると、つい着物が濡れる。着物がぬれると身體がしめるといふやうな事になるから、水あそびは當分見あはせた方がよろしい。前にもいつた通り、此時期は、傳染病が流行するから、好天氣の外はなるべく外出させぬがよろしい。

衣服の清潔

衣服は、なるべく度々取りかへて、殊に肌にくくものは清潔にしなければなりません。衣服が汚れて居ると、どうしても風を引きやすいし、之を媒介として、腸胃の病氣にもかゝりやすいのです。衣服の日光消毒も、食器と同じく必要なる事は申すまでもありません。

食物の注意

食物は前に述べました外に、規則正しく與へる

事が大切です。不規則にやる事は、いつでもわるいのですが、此時期に於て、殊によろしくないのです。

品物を選んで、分量を制限して、規則正しくやると云ふ事は、常より以上に注意しなくてはなりません。中流以上にはないやうですが、或は子供に金錢をもたせて、自分勝手なものを買はせるなどの事は甚だよろしくありません。必ず、親が撰んで買つてやるがよろしい。撰んで買つておいても子供が自由に戸棚から出して間食するやうなのは好ましくありません。必ず、親が分量も、時間も定めて與へる事が必要です。平生よい習慣のついで居る子供は、病氣にかゝる事が稀です。また病氣になつても早く全治するやうです。

私の知つて居るある子供など、疫痢病にかゝつたのでしたが、ふだん、嚴格に過ぎる位、衛生に注意せられて居るために、甚だ経過がよくて、直に全快しました。この子供は、お菓子も、他所で

は決して食べないのです。親の與へるもの、外は決して食べません。小さい時から含嗽をさせたり齒をみがさせたりしてありました。それから、病氣の時に困るといふので、吸入もならはせてあつたのです。それで、多くの場合全快がむづかしと

いはれて居る疫痢病にかゝつても、非常に早くなほりました。快方に向つてから後の養生法など非常にむづかしいのですが、極めて容易に之を實行する事が出来たのでした。

保 育 入 門 (五)

倉 橋 惣 三

五、幼稚園教育の顧慮

幼稚園教育が不斷に顧慮しなければならぬことは、

缺くべからざる顧慮なのである。

- 一、身體の健全なる發達
- 二、神經系統の養護
- 三、個性の保存

- 一、身體の健全なる發達

の三つである。但し此の三つの顧慮は必ずしも幼稚園教育に限らず、すべての教育に通じて必要のことであるけれども、幼稚園教育に於ても、特に

幼兒の身體は一方に於ては非常に盛なる發達力を有して居るが、また一方に於ては、骨格筋肉等の發達が未だ充分に完成して居ないために、種々なる發達障礙を被り易い。發達力の盛であるといふ方からいへば、之れを存分に助成して、一ぱいの發達を遂げしめなければならない。又、發達障

碍を破り易いといふ方からいへば、年齢の進んだもの殊に成人などに對するよりは一層細密なる注意を用ゐて些少にても身體の健全なる發達を害する如きことは、之れを避けなければならぬ。いづれより見るも、幼兒期の身體に關する顧慮は特別に必要である。

但し、身體の健全なる發達に最も積極的責任を有するものは家庭であつて、第一に必要な營養の如き、睡眠の如き、衣服の如き、所謂生活の中心に關することは、直接に幼稚園の責任とする處でなく、又幼稚園自らが如何ともなし得べからざる範圍に屬することである。勿論、萬一之等の點に就て甚しく注意の缺けて居る家庭があつた場合には、幼稚園は其の教育上の權威と親切とから、懇に家庭に教へ又其の注意を促し進むべきである。假令ば、衣服の清潔に就て、或は帽子靴等の注意に就て、或は辨當に關する注意等に就て、幼稚園は其の心づいた點を怠ることなく家庭に通告しなけ

ればならない。しかも之等の注意と共に、幼稚園自らの任務に屬する顧慮に就て、充分に周到でなければならぬ。設備上の衛生的顧慮は勿論、在園中の幼兒の生活をして、聊かたりとも健康に害のある如きことなからしめ、また最も適切なる種類と程度とに於て、其の發達を増進せしむる様になければならない。

世には、幼稚園の教育の全體を體育上の利益以外に出でないもの位に考へて居る説もある様であるが、それは言ふまでもなく到らざるの論である。幼稚園は幼兒の身體以外に、尙ほなすべき、又なし得べき他の目的を有して居るものである。しかし、他の如何なる貴重なる目的と雖も、幼兒の身體の健全なる發達を一毫たりとも犠牲にするの權はないのである。

二、神經系統の養護

身體の健全なる發達は、常に精神生活の上に大いなる影響を有するものであるが、精神生活の健

全不健全の上に最直接なる基礎的關係を有するものは、神經系統の健全といふことである。一度び神經系統が障礙を被つて薄弱なものになると、其の感情も不健全になる。意志も不健全になる、言ひかゆれば性格全體が薄弱になり甚しきは病的になる。身體の虛弱も最も憂ふべきことであるが、神經の薄弱は一層憂ふべきことである。

然るに幼兒期は其の神經系統の發達が未だ充分堅固でない爲に、一寸したことによつて障礙を受け易い。餘りに長い時間無理な注意の聚注を強めたり、餘りに度の強い刺戟を與へて過度の興奮をさせたり、餘りに精巧細緻なる手技等を課して小筋肉に疲勞を與へたりする様の類のことは、いづれも其の軟弱なる神經系統に障礙を與へ易い。茲に大いなる顧慮の必要を生ずるのである。蓋し、幼稚園が他の方面に於て如何に多くの顯著なる教育の成果を誇り得るとしても、若しそれがために幼兒の神經系統の養護者を害して居る。如きこと

があらば、それは實にゆゝしき大事と言はざるを得ない。何となれば、其の結果は其の幼兒の全性格全生涯の上に及び、また國民生活の將來に大いなる影響を與へるからである。

但し、神經系統の養護も、身體と同じく、顧慮に過ぐるは却つて其の強健なる發達を得ないことになるので、適當なる鍛鍊の必要あるは言を俟たない。しかも實際に於ては、成人の發達せる神經を標準とし易い結果、鍛鍊の足らざるよりも過ぐる方が多いのである。即ち常に之れを顧慮しなればならない。

三、個性の保存

以上二つの顧慮とは少しく方面を異にすることであるが教育上の一個の理想標準を以て幼兒の生活を劃一ならしめ、妄に個性の特長を失はしむる如きことも、次に顧慮すべき要點である。素より幼兒の中には多少望ましからざる性格を有するものが無いでもない。之れ等に對しては、幼稚園教

育の相當なる範圍に於て之れを教化矯正すること
は必要である。しかも、教育の點の成功は多くの
兒童を同一型に入らしむるのではなくして其の各
自の個性の充分なる又正しき發揮にある。殊に幼
兒教育に於て左様である。

尤も幼稚園時代は未だ個性の形成の充分確固な
る時期ではない。個性の保存といふことを以て、
幼稚園教育に於て個性を確立せしむるといふこと
に誤解されてはならない。茲にいふ意味は決して
そこ迄積極的な個性發揮をいふのではない。たゞ
消極的に個性壓迫、乃至個性消滅をしない様に願
慮すべきことをいふのである。しかも此ことたる
や大に必要なことである。

○幼稚園兒童の食事に就て

長濱 宗 信 氏

大阪市の幼稚園では、兒童がお辨當を食ふ時に、早くお上がり早
くお上がりと急がして、兒童が辨當を少し許り食はうが皆んな食
はふが、そんな事には無頓著であると云ふ様な扱ひ方をする先生
と。お辨當は皆んな食て仕舞ふ様に仕向ける先生とがあります。
此の辨當を食ふ事を急がす方では、時とすると、兒童等にお辨當
の早や食を競争せしむる事となつて、誠に宜くないから、兒童が
お辨當を食ふ時には受持先生は急がさないで、食物は能く咀嚼し
て、お辨當は皆んな食つて仕舞ふ様に仕向て貰ひたい。又大阪で
は子供を愛し過て、既に七八歳になつて居ても其食事の時には、
他から手傳てやる事が能くあります。斯んな育て方をして居る家
の子供は、意氣地がなくて、何時まで経つても、上手に食事をす
る事が出来ないから。兒童がお辨當を食ふ時には、受持先生は能
く氣を附て、上手に食ふ事の出来ない者には、其家庭にも注意し、
又其兒童が上手にお辨當を食ふ様に、親切に饜けて貰ひたいと云
ふのが、幼稚園の先生達に對する私の希望であります。
獨り幼稚園のみではなく、各家庭に於ても、子供が食事する時に
は、急がさないで、食物は能く咀嚼して食ふ様に仕向て貰ひたい、
又た子供が五六歳になれば、成るべく手傳はないで、獨りで食事
をする様に、饜けて貰ひたいと云ふのが私のお話の要點でありま
す。(『兒童研究』第十七卷第十一號所載)

○フレーベル會夏期

講習會

本會夏期講習會は都合により昨年開催致しませんでした。本年は多くの方の御希望により豫告の通り開催することに致しました。開會期に就ては幹事會の最も苦心の存する處でありまして八月一日よりの方が、御都合のよい方も尠くないとも考へたのでありますが、丁度七月末日まで大正博覽會が開かれて居りますので、地方の方々の中には、其の閉會に至らない中に御出京のあるのも一舉兩得的御便宜のあることと思ひ、七月二十七日より開會のことに致した次第であります。次に講習課目及講師氏名を本號に於て御通知するの運びに至らなかつたことは甚だ遺憾でありますが、課目はいづれも幼児教育に直接有益なるものにして、新しい興味之の豊なるもののみを撰ぶ筈であります。來月の本誌上に詳しく御報道致します。いづれその上御申込を願ひ度いと思ひますが、宿泊其他出來得る限りの御便宜を計り度いと目下種々計畫中であります。必ず多數の方々の御來會を得たいものであります。

○本會六月常集會

廣告の通り 六月十三日午後二時より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開催、高島平三郎氏の幼児教育上に關する有益なる御講演ある筈であります。秋の總會までは、暫く講習會もありませぬ。殊に多數の方々御來會下さい。

○神戸に於ける校園連絡會概況

近來兒童研究の聲盛にして苟も兒童の教育に従事するものは常に兒童の生理心理を腐心研究し以て教育の實を擧げんと力めつゝあり然るに教育の事たるや被教育者の周圍より受くる諸種の關係ありて獨り教育者の意の如くなる能はざるものあり茲に於てか其尤も多くの影響を受くる家庭との連絡必要あるを認め從來何地の幼稚園小學校に於ても家庭との連絡を計り相互の意見を交換し多大の効果を收めつゝあるは喜ばしき現象なりとす然るに小學校と幼稚園との連絡に付ては等閑に附せらるるの觀あるは我等幼児教育者の等しく遺憾とする所なり從來小學校は幼稚園教育の精神を熟知せざるにや幼稚園出身兒と家庭直接入學兒童とを同一視し同一に扱はんとするより生ずる難點を擧げて之を幼稚園の責に歸せんとし幼稚園は初等教育を受くる準備を得せんとするにも拘はらず未だ小學校の眞義を究めず互に個々獨立の教育を施さんとするは嘆すべき次第なり神戸市保育會に於ては曾て此點に留意し相互の連絡を計り互に意見を交換し從來の誤解をとき双方相接近して益々教育の効を奏せしめんものと計畫せしに時は良し春に央にて神戸幼稚園の庭も山も紅黄白紫相交り其眺めのみにても人の心を惹く折柄疊り來る空心なき雨の花を荒さんことの惜しくて急に四月二十七日午後三時校園連絡會と云ふ名稱の下に其が第一回を神戸幼稚園に開き神戸區内各小學校長及尋常一二年擔任教師を招待したり諸種の事故ありて出席者僅に二十有餘名に過ぎりしも折から滿たる雨はしめやかにて此小集會の上に匂ひ頗る有益なる會合なりき先づ望月神戸幼稚園長此會の主旨に就て語られて曰く從來我等保育者は如何にして保育すべきかに付多年憂慮したりしが三年前當市に於ける三市聯合保育會席上にて倉橋文學士が幼児教育の新局

標と題して講演せられて以来我神戸市保育界に大革命を來たし或は「モンテソリー」教育法の研究となり或は檜崎文學士の心理學講習となり少しづつ確信する所起り從來の室内保育を一變して郊外保育とし體育に力を盡くし而も此自然界に接觸せしむると同時に智育情育德育に其基礎的發展を遂げしめんにと力むるに至り檜崎先生指導の下に昨年四月以來體格検査言語の調査或は音域調査等の調査等種々の研究をなすべく其實を擧げんにと力め來りしが茲に學校との連絡必要の感を深くしかくは教員諸氏の來園を煩はせし次第なり願はくは諸氏幸に我等の意の存する所を贊し幼稚園に對する缺點及希望等を腹藏なく發表し給はば我等の幸之に過ぎずと次に保育會評議員たる増戶教育課長は今日遠來の客あるをも待たせ置き此會の主旨を賛するの余りに出席したりとて幼児の教育は獨り幼稚園時期に於て完成すべきものにあらず之を教育的に考ふる時は幼稚園以外の場所に於て其成績を見ざるべからず幼稚園出身兒の入學後の成績不良なる時は幼稚園に於て大に顧慮せざるべからざるも而も幼稚園に於て成績良好なりし兒童の就學後成績不良となりたりとせば其責小學校に歸すべきなり從來何れの小學校幼稚園に於ても家庭との連絡は遺憾なく研究されつゝあるも未だ校園兩者の連絡を計るの舉あるを聞かず今日當園に於て此會合を見るに至り欣喜に堪えざるなり幸に兩者相接近して互に眞理を究め意見を交換せば自ら完全なる教育を施す事を得んと演說せられ續いて保育會長小磯氏は今日教育上尤も重を於けるは體育にして之れ世界の大事なりと説き起し之により考ふるも人間の基礎的教育たる幼稚園小學校に於ては尤も體育を重せざるべからず殊に我國に結核の非常に多きを以て教育者は之に意を注がざる可らずと詳論せられ次に北野小學校長は從來小學校と幼稚園との連絡大に缺くる所あり我等に於ても幼稚園に就ては未だ充分理解せざる點多きを遺憾とせしが苟に考ふる所によれば幼稚園より小學校に入學當時は變化余りに多く爲に折角幼稚園の苦心が水泡に歸す

ることなきやの感あり故に小學校に有りては此點に注意し尋常一二年の如きは教室等も今少しく美的にし體育を主とするを急務なりと信ず又幼稚園に於ては手指の練習をなすにも拘はらず小學校にて一旦課し來りし手工の如き尋常一二年に於ては中途にして廢するに至れり其理由の一として準備の爲め教師の勞多きに依るとの事ありと聞く茲に於て我校にては試みに幼年兒童に豆細工を課するにも長きひこ及び豆を與へ其目的と寸法を指示し自由に製作せしめたるに其結果は一々教師が準備して與ふるよりも其好なるを知らざるを得たり今幼稚園の技も同一方法に行はれ其精神に於ても相等しきを承り喜びに堪へざる次第なり」と尙學校長及教員等の質問及所感等種々有益なる談話を交換し茶菓の饗に各自胸襟を開きて賑やかに愉快に興盡きざるも何時しか室内電燈明かなるに至り此小集會は閉ぢられぬ(神戸幼稚園佐藤滿壽子氏報)

○投書を希望す

- 一、幼稚園教育界に關する諸集會等の報道。
 - 二、保育上の諸調査。
 - 三、保育の實際に關する經驗談。
 - 四、保育の實際に關する新意見。
- その他御研究のいろ〜。

フレールベル自傳

(第六回)

《マイニンゲン太公に宛てたる書翰》

倉橋惣三 譯

三十九、哲學

私が今記した仕事を終つて後ある小さい私有の土地の測量が私の手でなるべく任かされました、この仕事から私にとつて最も重大な結果が引續いて起りました。

私はこゝでは只一つの點を記すに止めませう。この土地の連帶所有者の一人に若い哲學博士が居りました。その人は新シエリング派に傾いて居りました。

私達が私達の内的生活を目覺めさせるやうな話をしなかつたとは思はれないであります。誠にさうでありました。彼は私にシエリングの「ブルーン、オーダー、ユーベル、デイ、ウエルト」

ゼーレ」をお讀みなさいといつて貸してくれました。その本で私が讀んだことは深く私を動かしました。而して私はそれが本當に分つたやうに思ひました。

私よりあまり多く年を取つてゐない友誼の厚い若い友は——私達は既にエナで會つたことがあるのでした——私がその本から生き生きして興味を感得してゐることを知りました、而して私は實際それに就て彼と度々物語りました。

或日、私達と一緒にある大きな繪畫展覽會を見に行つて來ての後、彼は私に次のやうなことを言ひました。それは彼の口から途法もなく不可思議に響きました。そして私にはその頃理解し得られ

ないやうに思はれました。

「哲學には近寄らないやうになさい、哲學は君を疑惑と暗黒に導いて行きます。美術に君の一身をお捧げなさい、美術は生命と平和と歡喜とを君に與へます」

私はその若い人の言つたことを覺えてゐたことは事實です。しかし私にはその意味を了解することが出来ませんでした。何故ならば私は哲學を人生の必要な部分をなしてゐるものであると思つてゐました。而して人が靜かに内的生活を檢覈する時には暗黒や疑惑に近いてゆくといふ觀念を如何しても捉へることは出来ませんでした。然るに美術は哲學から較べると私とは遙かに離れたものでありました。何故ならば美術の作品から受け入れられる深き喜び（これに對しては私は明瞭な理由を與へることは出来ませんでした）、活動的な美學的の感情のひらめきなどは私の上にまだ芽みませんでした。

私の友である處の博士の言葉はしかながら私に注意を促しました。而して私の生命とその生命の目的にまで私の注意を促しました、而して私に甚だ異つた遙かかけ離れた二種の生活の組織を知らせてくれました。

四十、會者定離

私が事へてゐたバムベルグの官吏の家庭教師をしてゐた私の友はしばらくしてその職を去ることになりました。彼は發するに先立つて、彼がフランスに行くといふことを話しました。

私は悲しみを以て彼の出發を見送りました。茲二三年の間は再び一緒に會ふこともなからうし、又彼が私の未來の生活を間接に定めることもなからうと思つたからです。けれども斯る事柄は生涯の中に屢々起つたので今別れるといふことは又會ふといふことの原となり、會ふといふことは別れるといふことの原となることを知りました。

私の述べた出来事は私の外的生活に影響を與へませんでした、私の外的生活はしばらくの間安らかな進路を取つて行きました。

私は私の性格及び私の道徳的生活の向上發展に逸すべからざる多くの機會を看過します、而して突然バムベルグ滞在の終局に達します。

四十一、新聞紙へ廣告

私は今やもう一度確かな定つた仕事を得べく熱心に私の心を傾けました、本當に未來の事に關しては私はまるきり頼る所がありませんでした。

私は私に助力を與へてくれる人を持ちませんでした。ですから私は神様と運命とのみに頼つて進んで行かうと決心しました。

私は當時廣く讀まれてゐたアルゲマイネ、アンツアイゲル、デル、ドイツチエンといふ新聞に依つて地位を探さうと決めました。而して私の能力の主張の證として建築の設計と陸地測量に於ける私の仕事の見本とに説明書を添へて編輯の手許へ

送つたらよからうと考へました。

この計畫を充分考へて、私は直ちにその仕事に着手しました。

建築の見取圖には私は周圍に離屋を取つて別荘の設計を選びました。不自由勝ちな道具を以て私はそれを仕上げました。それは諸種の欠くべからざる設計から割り出して完全な勞作を示しました。而して長さの比例尺の正確と適合との批判的吟味として私はその中に含まれてゐるすべての細目と條件との記述を加へて置きました。

陸地測量には以前私の描いた地圖から編製せられた測定表を選びました、それは私が任意の假定の下に拵へたのでした。

是等の作品を私の廣告文と一緒に一八〇三年に私は前に記した新聞社へ送りました。私の證明書を讀み私の仕事の出來榮えを調査した上で私の資格に關して確認的の言葉を添へてくれるやうにと編輯者に頼んでやりました。

作品も證明書も二つながら編輯者の意にひ副ました。而して私が編輯者になした添書の要求も受合はれました。

私は數種の申込を受けました、何れにも皆いくらか宛心を惹かれるところがありました。その中から選擇するといふことは困難なことでした。けれども遂に私はメクレンブルグ、ストレリッツのデユウイツツの大統領兼樞密顧問官（當時その領有地の一なるグロスミルホーに在住）の秘書官として私に提供された地位に應ずることに決めました。

残りの申込の中にはフォルデルスドルフの秘書官から來てゐるのもありました。その人はオーベルプファルツにある領有地の會計方を探してゐたのです、この地位は前のやうに私の氣に入りませんでしたけれども私はヘル、フオン、フォルデルスドルフの是等の領有地に赴任してある明記された計畫に依つて當時澤山未濟になつたためた財産管理

人の六ヶ敷い勘定を整理したりして前の地位に對する準備が出来るまでの暇潰しにその地位を選びました。

四十二、帳簿管理方

一八〇四年の一月の始頃、私はオーベルプファルツに向けて出發しました。

併し私は決着的に選んで置いたグロスミルホーに於ける地位に就くべくメクレンブルグに呼ばれることになりました。

私はまだ充分の準備は出来ませんでした。恐しく寒さの厳しい二月の冬枯れに郵便馬車に乗つて其地へ赴きました。

さりながらオーベルプファルツに於ける私の滞在が短くあつたためと自分の従事してゐた仕事となし遂げやうとして不斷に休まずに働いたためとで私がパバリヤで過した時間は私に大層有益な結果を齎しました。

サキンニイとプロシヤから來た巧者な快活な若

い人は大層親切に私を迎へてくれました。彼等の異つた務めの種類と彼等が務めに就て語る模様とで地所持ちの貴族と彼等の従者との間に存する内在關係を詳知せしめてくれました。

是等の事件を思ひ起すと私は私の常にやさしく慈しみ深かつた運命が如何に親切に次いで來るべき天職に對して私を備へさせくれたかといふことを嬉しく思ふのであります。

私は未だ嘗つて大領有地の帳簿の整理方などを見る機會はありませんでした、況んや自身之を整理したことなどはありません、而かも今や私はこの仕事をすることになつたのです。

これは私にとつては大任務でありました。

非常によく整理されてゐる帳簿の管理方が其後私の手にきつかりと委ねられることになりましたそこで今記したやうな大抵の計畫をしつかり胸中に立て、實地に當つてよく練習してみても充分準備が出来たところで私の新しい職務に向つて出發し

ました。

有難いことには私はこの上なく私の主人を喜ばせました。のみならず峻しい注意を以てあらゆる細かな點を檢べまわる奥様までもひどく喜ばせました。

ヘル、フオン、デウイツツの領有地の近傍はこの國の該地方にして珍はらく景色が美しくありました。

湖や丘や新緑の木々に富んでゐて自然が手落ちをしたとも思はれるところには人工がこれを補つて居りました。

好運は常に私を自然の美しい眺めの中に連れて行つてくれました。

私が私の新しい仕事に容易さを感じ出すやうになるとその仕事は簡單になつて來ました。毎週繰り返される仕事の運びはキチンと行くやうになりました。而して私は自分を進めて行くための思索の時間を得ることが出来るやうになりました。

けれども此の領有地に於ける雇はれも結局束の間のやとはれであつたのでした。私の生活と嗜好とは早くも變つて來ました。無理にも従はせられるやうな星が私の心の中に瞬き始めたのです。

この結果として私は今では私の雇はれを私の天職に取附く機會が現れると同時に放たるべき副錨に過ぎないといふやうに考へました。

この機會といふのはそれから間もなく現れました。

四十三、叔父ホフマンの死

私の兄と同じ様に常に私を慈しんでくれた私の叔父（ホフマン）が近頃逝くなりました。

叔父は臨終の床に在つても尙私のことを思つてゐてくれました、而して私の兄に私の生活のために全力を盡してある一定の職業を見附けてやるやうに又他に安全な良い雇ひ口を得る望みが出るまではそれまで保つてゐた地位から決して私を去らしめないやうにと吩咐けました。

天命に依つて叔父の遺言とは異つた結果が來ました。

叔父の死はその結果として私に與へられた少額の遺産に依つて私に私の心の一番うれしい望みを充たしてくれる資産を與へてくれました。

神は斯くも不思議に人々の運命を支配し給ふのであります。

此の自傳に於て私の優しい慈しみ深い第二の父と永久に別れる前にある一つの事柄を記さねばなりません。

私がメクレンドルグへの旅行の途次（スタッドイルムに於て）最後に叔父に會つた時に私は叔父と話をして深い喜びを得ました、丁度信する父がその成人した息子と話す様に、私は愛情のあらゆる絆きずなによつて叔父に結びつけられて居りました。

叔父は腹藏なく少年時代に現れてゐた私の缺點を擧げて、そのために叔父が種々心配したことなどを話しました、而して這麼風にして私が叔父の

家へ引取られた當時のことや又その原因などに逆つて行きました。

叔父は「俺はお前の阿母さんを大層愛してゐた、本當に彼女が兄妹中で一番可愛かつた、お前に會つて私は彼女がもう一度生れ代つて來たやうに思はれた而して彼女を愛するが故に私はお前の面倒を見て上げたのだ。而してそれまで彼女ばかりに向つてゐた愛をお前にも與へたのだ」と言ひました。

而して母のなしたと聞く多くの親切な事柄を通して母が何様人であつたらうといふ明かな概念までも形作り、眞實に母を思ひ起す様に思はれる程母のことは親しく思つてゐたのですが叔父の懷舊談を聽いて後には以前にも増して母がなつかしくなりました。

何故ならばこの氣高い高尚な第二の父もまた母の賜物でなくて何でありませうぞ。

四十四、より高き修養

私の叔父との會話は私が後年度々確めた——人の現在の行動の源泉若しくは動機といふものは現在より離れて遠く、現在の事情外に横はつてゐてその時人が交渉してゐる人とは全然無關係であるといふやうなことを分らせてくれました。

私はまた自分で生活して行く中に交誼といふものはしつかりしてゐればゐる程長く續き、愈々眞實なれば愈々高き普遍的な特殊の人に關しない源泉から湧き出て來るものであるといふことを幾度も省察しました。

メクレンブルグに於て家中に於ける又家族に於ける席次が私より一つ上であつた人は家庭教師でありました。その人は私よりも先へこの家に来てゐました——ゲツチンゲン大學の學位(ドクターオブ、フィロソフィー)を持つた若い人です。私達は大體から見てもあまり親しくはありませんでした、何故ならばその人は大學卒業生といふことを鼻にかけて高く止まつてゐたからです。

が出来ました。

四十五、興味の建築學

大統領は家にゐる家族の外にハッレの中學校ベツギキョウに二人の息子を持つて居りました。

息子達はその特別教師に伴はれて両親を訪ねました、その教師といふのは後年令名高き學者ウオルワイデ博士として名高くなるべき紳士でありました。

ウオルワイデ博士は數學者でもあり物理學者でもありました、私は氏が自由に打解ける人であることが分りました。氏は大層親切で自身考へるために設けた多くの異つた難問を私に記してくれ且又これを解いてくれました。

これは私の長く眠つてゐた、押付けられてゐた科學としての數學に對する愛及び物理學に對する愛を充分に目覺まして再び躍り上らしてくれました。

近頃まで私の嗜好は漸々と建築學に向つて傾い

けれどもその人を通して私はその地方の僧侶と親しくありました、而してこれは私には利益のあることでありました。

農夫や地方事務官に就て言ふならば彼等の愛想のよい性質はもうそれだけで充分な歡迎となつたのであります。

斯くて私は多面的な交り易い愉快な自由な友誼の中に長く缺乏を感じてゐた方法によつて生活しました。

私は身心智情共に健全で私の思想も亦光明と愉快とに充ちてゐましたので間もなく私の心は再びより高き修養に向つて熱心な希望を感じました。

若い家庭教師は去つてしまひました、而して彼の去つた後には私の修養に對する要求は益々鋭くなつてゆきました、何故ならば私が彼と話すことの出来た智的會話をすることが出来なくなつたからであります。

けれども私は間もなく更らに救濟者を得ること

て行きました、而して私は今やそれを私の職業として、選び以後は都ての熱心を以てそれを學ぼうとしつかり決めました。

私の智的要求と職業の選擇は遂に共に進んで行くやうに見えました、而して私は此の事を思ふと斷えず愉快と幸福とを感じました、私は是等の題目に於て役に立つ最良の書物は何であるかといふことを學者から聞き知る機會を得ました。而して私の第一の心遣ひは是等の書物を得やうといふ事にありました。

建築學は今や熱心に研究されました。而して他の書物も亦放擲されてはゐませんでした。

四十六、愛讀書の數々

次に掲ぐる書物は私に非常に關係の深いものであります。

プレシユケ著「人類學斷片」(小形の謙遜な本)

「ノバリス全集」

アルント著「獨逸」及び「歐羅巴」

是等の書物の一番始めのは一讀して直ちに親しく思はれました、乃で私は連合せる一體としての自己、私の外的存在、私の内的性格、私の嗜好、及び私の生活の進路を其の中に認めることが出来ました。

私は始めて私自身と私の生活とを私以外の全世界に對照して一個の存在物として確かめることが出来ました。

二番目の本は私の前に深く秘められた情緒、知覺、及び精純な豁達な明瞭な私の最も深き心靈の意志を私の前に排べました。若しも私がその本と別れたならばそれは私が私自身と別れたやうに思ひました。若し何事かその本の上に起つたならばそれは私の上に起つたかの如くに感ぜられました否それよりもつと深く、もつと悲しく感ぜられました。

三番目の本は廣い歴史的關係に於ける人といふものを教へました、一つの完體としての普遍的の

生活を私の前に置きました、而して私が如何に私の國民祖先並びに同時代の人々の兩方ながらに關係してゐるかといふ事を示しました。

併しこの最後の本が私になした利益は其頃には殆んど認められませんでした。何故ならば私の思想は或る定まつた外的の目的即ち建築家になるといふ事に傾いてゐたからです。併し兎も角も私は私を捉へた新しい眞摯な生活を認めることが出来ました。而してこの變化を自分で覺えて置くために私は今や洗禮名の最初の名の代りに最後の名を基督教名として用ゐる始めました。他の事情も亦この變化をなすべく私に強ひました、而して進んでそれは少年時代に呼ばれてゐた名の周圍に群つてゐる多くの不愉快な印象の記憶から自由にしてくれました。

四十七、フランクフルトへ

現在の職業にはもはや私が満足してゐることの出来ない時期に到達しました。そこで私は辭表を

提出しました、私を決めた所の直接の外的事件とは即ちこれなのであります。

バムベルグに於て私が政府の書記を奉じてゐた時分、私の知り合ひだつた家庭教師、フランクフルトに行き、それからフランスに行くといつてゐた若い人と私は其後交通して居りました。

彼は其後教育に従事してフランクフルトに住んでゐました、而して今ではオランダで或る商家の家庭教師をして居りました。

私は私の現在の地位を去つて建築家の地位を求めたいといふ私の希望を彼に知らせました、而して人々の種々なる生活の雜多な流れが入り交つて居るフランクフルトに於て私の目的を達し得るか如何かといふ事に就て彼の意見を徴しました。

私の友はフランクフルト生活の委細に就て精密に知つて居たので私は私の畫策を充たすべき最上の方法を教へてくれるやうにと問うたのです。

私の友は心から私の畫策に氣を入れてくれました

た、而して彼は夏の初めには再びフランクフルトで幾日かを費す積りであるといふ事を私に書いて寄越しました、而して彼は若し私が其の頃にフランクフルトへ兎も角も行く事が出来たならば其地でその全體の事柄に關してお互ひに相談するのが仕事に取掛る最上の方法であらうと言つて寄越しました。

是に於て私は直ちに翌春私の地位を去つてフランクフルトで友達と一緒にならうと確定しましたけれども斯る旅行に要する金子を何處で調達しましょうぞ。

私の個人的の費用を償ひ、バムベルグで借りた負債を返却するために今までのすべての月給を要しました。

この困難に際して私はこれまで私をよく理解してゐた私の兄に再び手紙をやりましたをして兄に補助を頼みました。

私はこの頃は特殊な窮境ヂレンマに處してゐたのです、

一方では私の現在の地位から逃れなくてはならぬといふことを非常に鋭く感じて居りました、而して又一方では例の私の變り易いといふ性質が今度こそは兄の恩寵と忍耐とを磨り減らしてしまふことを恐れました。

この窮境に立つて私は私の心の眞の状態を記さうと努めて書いた手紙を兄に送りました。内的の完成といふことに向つて不斷の努力に於てのみ私の生涯の目的を見出すことが出来るといふことを申してやりました。

兒 童 研 究

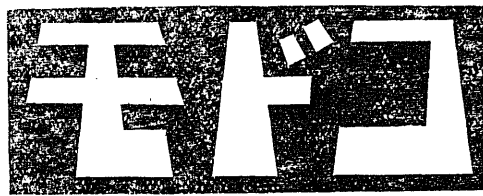
社會の改善も、人類の向上も、文明の進歩も、國家の發展も詮じつむれば、ただ善良の兒童を得るにありと言ふことになる。兒童を愛する國は興り、兒童を顧みざる國は亡ぶ、これは千古萬古變ることなき箴言である。兒童の研究は、ひとり教育家や、醫家に一任して置くべきものではない。世の父兄自ら研究すべき筈のものである。兒童の研究は即ち我を愛し、家を愛し、國を愛し、人類を愛することになる、兒童のために最善を謀らざる家庭は、決して幸福を望むことは出来ぬ、我儕は何人も兒童の研究に興味を持たれんことを切に希望してやまないのである。

○會費半筒年分金九十錢 同一筒年分一圓八十錢○兒童研究は毎月一回二十五日發行○會員には無代頒布○見本金十五錢

東京市本郷區千駄木町五十番地

日 本 兒 童 學 會

顧問高島平三郎先生



一冊拾錢
郵分五厘
六冊分前
金稅共
五十八錢
十五分
壹圓拾錢

定價

畫雜誌

綺麗的
面育的
教

日本一

每月一回

モドコ社發行

東京市小石川區林町五十七番
振替東京二丁目七十九番三

フレイベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ケ
 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレイベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

本會々々長

中川 謙二郎

本會幹事

(イロハ順)

井村 くに 池田 トヨ 芳賀 晴

坂内 ミツ 和田 實 和田 くら
 武井 綱枝 岡部 やす 倉橋 惣三
 安井 哲 福田 ふく 小向 きみ
 雨森 劍 坂井 ふで

本會評議員 (イロハ順)

乙竹 岩造氏 吉田 熊次氏 田中 ふさ氏
 野口 幽香氏 榎山 榮次氏 藤井 利譽氏
 下田 次郎氏 日田 權一氏

本會客員 (イロハ順)

伊澤 脩二氏 巖谷 季雄氏 岩谷 英太郎氏
 波多野 貞之助氏 細川 潤次郎氏 本間 辰藏氏
 戸野 周次郎氏 大瀬 甚太郎氏 奥好 義氏
 尾田 信忠氏 大久保 介壽氏 嘉納 治五郎氏
 唐澤 光徳氏 谷本 富氏 高島 平三郎氏
 棚橋 源太郎氏 多田 房之輔氏 田中 敬一氏
 中島 力造氏 中村 五六氏 野尻 精一氏
 野上 俊夫氏 久留島 武彦氏 松本 亦太郎氏
 松本 孝次郎氏 馬上 孝太郎氏 富士川 游氏
 小西 信八氏 淺岡 一氏 笹部 顯宜氏
 櫻井 光華氏 三島 通真氏 篠田 利英氏
 東 基吉氏 瀬川 昌書氏 尺 秀三郎氏
 菅原 教造氏

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)
婦人と子ども 第十四卷第五號 大正三年六月五日發行

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場